

敵を愛するという生き方へ

ルカによる福音 6:27-38

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。）「わたしの言葉を聞いているあなたがたに言う。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしろ。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない。人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあろうか。罪人でも、愛してくれる人を愛している。また、自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、どんな恵みがあろうか。罪人でも同じことをしている。返してもらおうことを当てにして貸したところで、どんな恵みがあろうか。罪人さえ、同じものを返してもらおうとして、罪人に貸すのである。しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである。あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」

「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。あなたがたは自分の量る秤で量り返されるからである。」

説教

先週の幸いと不幸の宣言の後、イエスさまは新しい人間関係を二つ紹介し生き方を示されます。

一つ目はアガペー（神の愛）と呼ばれる「敵を愛する」という生き方です。

わたしの言葉を聞いているあなたがたに言うておく。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしてください。（ルカ6:27）

この愛は自らの道徳的努力によって得られる愛というより、神に無条件に愛されている体験から生まれてくる愛です。「愛する」というのは好き嫌いといった感情、気持ちだけの問題ではありません。自分に対して敵意を示す相手に対してアガペーの行為で具体的に答えることだとイエスさまはお示しになります。それは親切にする、祝福する、祈る、ただで与えるなどです。

（ルカ6:27-35 参照）

二つ目は「ゆるし合う」新しい人間関係です。

父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。（ルカ6:36）

ルカは赦すことを強調します。赦すことは神の業です。それは相手を裁かないこと、とがめないこと「ただで」与えることです。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに与えるイメージは神の無限の赦しを表すことばです。

ところで、この赦せる力はどこから来るのでしょうか？それは、神の無限の赦しと憐れみを体験するところから来ます。

神がわたしたちを「憐れみ深い者」へと変えていきます。

使徒信条

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。

また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。

主は聖霊によって宿り、おとめマリヤから生まれ（ここで礼をする）ポンテオ・

ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。

そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている

人と死んだ人とを審くために来られます。

また、聖霊を信じます。†聖なる共同の公会、聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます アーメン

共同祈願

どのような人にも情け深い神に信頼して祈りましょう。

- ・主が示された愛を行う力をお与えください。わたしたちがゆるし合う心をもって、神の恵みを多くの人と分かち合うことができますように。
 - ・神の似姿として造られた人間の尊厳を、すべての人が大切にし、互いに助け合いながら、いのちを高め合うことができますように。
 - ・人を苦しめる偏見や噂に惑わされることなく、神のあわれみの心になって、わたしたちも人に接し、よい交わりを築くことができますように。
 - ・（あなたに必要な祈りを追加してお祈りしてください）
- わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン